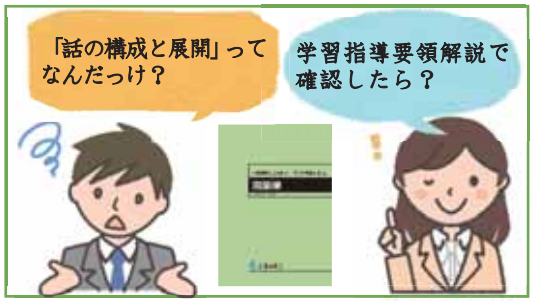
国語科
評価の改善を目指して

言語活動を工夫し
児童の「考えの変容」を見取る

POINT１　児童が身に付ける「国語の力（資質・能力）」を絞る

授業を通して児童に身に付けさせたい国語科の資質・能力は，教師が責任をもって設定することが求められています。教科書の指導書等では，指導の多様性を担保するために多くの指導事項が設定されているので注意が必要です。効果的かつ効率的な評価にしましょう。



① 学習指導要領解説を基に指導事項の確認
（系統性や学習用語なども）

② 教科書教材の教材分析を踏まえて指導事項の焦点化

③ 児童の実態に合わせた評価規準の設定

POINT２　児童が「考えの変容」を生み出す言語活動を設定する

一問一答のやりとりやクイズ形式の授業では，一時の楽しさはあるかもしれません。しかし，児童の思考力・判断力・表現力などを鍛えることができるでしょうか。試行錯誤を伴う適切な言語活動を設定することで，児童の「考えの変容」が生まれます。

① 児童の実態に合わせた学習課題のアレンジ
日常生活や教材研究，学習履歴を踏まえ，目の前の児童に合った学習課題にアレンジしましょう。

② 児童の「気づき」が生かされるしかけの工夫
安易なクイズやゲームにより「浅い学び」で終わってしまう授業が散見されます。児童自らが，学習課題や解決に向ける方法などについて気付くしかけを工夫して，教師も授業を楽しみましょう。

③ 個人で考えたり，友達と考えたりする場の設定
発言力のある児童だけでなく，児童一人一人が充実感を味わうために，様々な「対話」の場を設定しましょう。

POINT３　児童が「自分の考え」を書きたくなるように工夫する

児童に「学習を通して，こんなことが分かるようになった」という自覚をもたせるために，学習の経緯を記録させておくと役に立ちます。

書くことが難しい低学年・中学年については，「めあて」に向かって自分なりに様々な工夫を行おうとしているかを自己評価するなどの，児童の学習状況を適切に把握するための学習評価の工夫が求められます。

２学年
「アフレコに挑戦しよう」

国語科実践事例
教材：「お手紙」（光村図書２年）

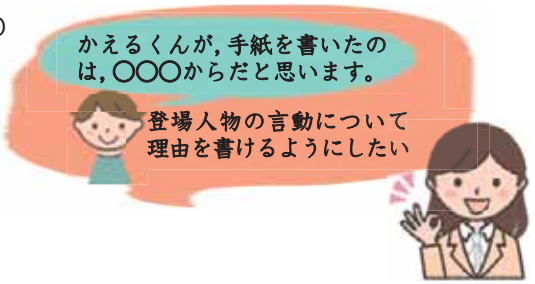
教材文の特質を踏まえて，児童の問いを引き出す。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読しようとしている。（（１）キ） ②文の中における主語と述語の関係に気付いている。（（１）カ）	①「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（Cエ） ②「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（Cオ）	①すすんで，根拠になる文を探し，学習の見通しをもって，音読しようとしている。

POINT1　「自分の考え」には，理由を添えさせる

児童に身に付けさせたい指導事項をＣエ「自分の考えの形成」とした。登場人物である，がまくんとかえるくんの言動についての考えを，理由を添えて述べさせたい。その際，「『〇〇〇』と書いてあって……」という一言を付け加えることで読みが深まるきっかけとなる。



POINT2　音読の録音を通して，登場人物の気持ちに近付ける

画像を見ながら，状況を想像して音読するという言語活動を設定した。

①がまくんとかえるくんの言動を課題にする

「かえるくんはなぜ手紙を書いたのか」，「手紙を書いたことを，なぜがまくんに話してしまったのか」，「がまくんが，本当にほしかったものは何なのか」などの課題を設定した。自分の考えを交流する際，理由と共に述べることで，様々な考えが広がった。

②音読をタブレット PC を用いて録音する

画像に合わせて，音読することを通して，登場人物の心情に近付く。

③録音する前に自分の考えを述べる

さまざまな「考え」があり，さまざまな述べ方があることに触れる大切な機会になった。

POINT3　ポイントを踏まえて学習感想を書かせる

・考えを記述でまとめる

第一次の終了時などに，簡単な学習感想を記述させ，書きためていった。

・「考えの変化」を大切にする

自分の考えが，「どこで」「誰（何）の言葉によって」「どう変わった（変わらなかった）」のポイントを意識して書く。